

## 第1回浜田市総合振興計画審議会 会議録

日時 平成29年7月26日(水)

午後6時30分～午後8時15分

場所 浜田市役所(4階)講堂

[進行/会長]

### ◆ 開会(午後6時30分)

会長	<p>定刻になりましたので、只今から第1回「浜田市総合振興計画審議会」を始めさせていただきます。</p> <p>議事進行は昨年度より会長を務めさせていただいております、私、林が進めてまいります。よろしくお願いいたします。</p> <p>さて、本日は、お忙しいところ、また、お暑い中をご出席頂きまして、誠にありがとうございます。</p> <p>本審議会は、昨年度より総合振興計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略、定住自立圏共生ビジョンの進捗管理について審議することとしております。</p> <p>本日は、平成28年度の進捗状況についてご意見を伺うこととしております。終了予定時刻は午後8時までを予定としておりますが、委員の皆様のご忌憚りの無いご意見をいただきますよう、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、開会にあたり久保田市長よりごあいさつをいただきたいと思っております。</p>
----	---

### 1 市長あいさつ

市長	<p>市長の久保田でございます。開会にあたりまして、一言ごあいさつ申し上げます。委員の皆様方には大変暑い中、また、大変お忙しい中、ご出席を賜り、ありがとうございます。浜田市総合振興計画審議会の議員の皆様方には、昨年度は、前の計画でございます、浜田市総合振興計画後期基本計画、そして浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況についてご意見をいただきました。また、浜田市定住自立圏共生ビジョンの変更計画の策定にも貴重なご意見を頂戴したところでございます。この場をお借りしまして、皆様方に御礼を申し上げたいと思っております。今年度でございますけれども、今年度の審議会につきましては、審議会委員の皆様をはじめ、多くの市民の皆様からご意見をいただいて作成いたしました第2次浜田市総合振興計画前期基本計画が昨年平成28年度よりスタートいたしましたので、その一年目における進捗状況についてご審議をしていただきたいと考えております。また併せまして、浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び浜田市定住自立圏共生ビジョンの進捗状況につきましても、ご審議をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>現在、第2次浜田市総合振興計画スタートいたしまして、これは10年先を見据えて、元気な浜田づくりということで、将来像を皆様でご議論いただきまして、決めていただきました。「住みたい、住んでよかった、魅力いっぱい、元気な浜田」ということで、現在、実現を目指しまして、市民の皆さんと一緒に取り組んでいるところでございます。今日は、これまでの取組状況や今後の取組について忌憚のないご意見を頂戴したいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>なお、わたくし、別の公務が入っておりますので、大変恐縮ではございますが、冒頭のごあいさつをさせていただきまして、失礼いたしますので、お許しをいただきたいと思っております。今日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>
----	---

〔委員・職員紹介〕	
会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、本日の委員の出席状況等を事務局からお知らせ願います。</p> <p>配付資料の確認もお願いします。</p>
政策企画課長	<p>事務局の地域政策部政策企画課長の岡橋と申します。4月からお世話になっております。どうぞよろしくお願いたします。</p> <p>本日の委員の出席状況の報告と配付資料の確認をさせていただきます。</p> <p>はじめに、本日の委員の出席状況でございますが、委員につきましては、昨年度の審議会から、人事異動などの関係から3名の方が変更となっておりますので、ご紹介いたします。お手元の委員名簿をご覧ください。はじめに、浜田人権擁護委員協議会から、西井 様より代わられました村井 勉 様でございます。よろしくお願いたします。続きまして、浜田商工会議所から、岩谷 様より 樋山 様に代わられておりますが、本日は欠席されております。</p> <p>続いて、浜田金融会から、宮内 様より代わられました田中 修司 様でございます。</p> <p>以上でございます。なお、時間の都合上、他の委員の皆様あるいは浜田市職員につきましては、お手元の名簿で紹介に代えさせていただきますのでよろしくお願いたします。</p> <p>それから本日の出席状況ですが、1名様ほど、まだお見えになっていませんがお伺いしたところによりますと、出席は19名、欠席は6名となっております。浜田市総合振興計画審議会条例で定めております会議の開催要件の過半数を満たしておりますのでご報告します。</p> <p>続きまして、議題に入ります前に資料の確認をさせていただきます。今回は事前に、郵送で資料をすでにお送りをさせていただいております。今日、使いますのは、資料1から資料5の5種類でございます。皆様方、お持ちでいらっしゃいますでしょうか。もし、ございませんようでしたら、事務局スタッフの方にお申し付けいただければと思います。</p> <p>それでは、引き続きまして、会長さんの方に議事を進めていただきたいと思いますのでよろしくお願いたします。</p>
2 議題	
(1) 総合振興計画、総合戦略及び定住自立圏共生ビジョンの進捗管理について	
会長	<p>ありがとうございました。それでは、議事を進めてまいります。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>まず、議題(1)総合振興計画、総合戦略及び定住自立圏共生ビジョンの進捗管理について、事務局から説明をお願いします。</p>
政策企画課長	<p>それではお手元の資料1をご覧ください。</p> <p>まず、第2次浜田市総合振興計画前期基本計画の進捗管理についてです。</p> <p>このことにつきましては、主要施策ごとに、具体的な数値目標を掲げており、年度ごとにその進捗状況を評価することにしていきます。計画期間ですが、平成28年度から平成33年度の6年間であり、今回が1年目の進捗評価ということになります。目標数とありますが243項目の目標に対しまして、28年度の実績について、評価を行います。次に浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗管理については、総合振興計画から人口減少対策に関する項目を収集して策定をしています。昨年度には、平成27年度のKPI、重要業績評価指標などの達成状況について内</p>

	<p>部評価を行い、皆様方にもご意見を頂戴しました。計画期間は総合振興計画と違い、平成 27 年度から平成 31 年度の 5 か年です。今回が 2 年目の進捗評価です。総合振興計画と重複する、K P I の 51 項目につきましては、同じ進捗評価とさせていただきます。続いて 3. 浜田市定住自立圏共生ビジョンにつきましては、昨年度計画を変更させていただき、成果指標を取り入れるとともに、総合振興計画と計画期間を統一させていただきました。これにつきましても 32 項目ほど成果指標がありますが、このすべてを総合振興計画から抜き出していますので、同じ進捗評価となっています。裏面をご覧ください。4. 進捗管理体制です。まず(1) 内部体制ですがこれにつきましては、市長をトップとする人口減少問題対策本部におきまして、進捗状況と同じ評価を確認いたします。また(2) 外部体制については本審議会において検証審議をしていただくことにさせていただきます。最後に 5. 進捗管理のスケジュールですが、これについては 6 月 9 日に市の人口減少問題対策本部第 1 回本部会議において、各担当部課で内部評価をした計画をそれぞれ確認しています。また 6 月 30 日におきましては、議会との意見交換会で様々なご意見を頂戴しました。</p> <p>本日はこの審議会でご意見を伺い、見直し等ございましたら、必要になれば、再度、内部協議を行い、8 月に 2 回目の審議会を開催する予定です。その後 9 月議会で最終の報告となっています。以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。只今、ご説明いただきましたが、委員の皆さんから、ご質問やご意見があればお願いします。</p> <p>よろしいですか。また何かお気づきの点があれば、お願いいたします。</p> <p>具体的な進捗管理方法や体制、平成 29 年度のスケジュールについて、今ご説明いただいたように、基本的にこのとおりに進めることとします。よろしく願います。</p>
<p>(2) 第 2 次浜田市総合振興計画前期基本計画及び浜田市定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について</p> <p>(3) 浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について</p>	
<p>会長</p>	<p>続きまして、議題 (2) の「第 2 次浜田市総合振興計画前期基本計画及び浜田市定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について」及び議題 (3) の「浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について」につきましては、内容が関連いたしますので一括で説明をしていただき、皆さんからのご意見、ご質問につきましては、議題ごとにお伺いしたいと思いますのでよろしく願います。では、事務局から一括して説明をお願いします。</p>
<p>政策企画課長</p>	<p>資料 2 をご覧ください。浜田市の概況という冊子でございます。これについて、まずご説明します。この資料は浜田市の主だった様々な指標について集約をさせていただいた統計となっています。今回は総合振興計画他に、平成 27 年度の進捗状況のご確認に際しまして、ある程度の客観的な指標について関連するデータのお示しをさせていただいたという趣旨です。総合振興計画と、直接連動するデータとしては数少ないですが、例えば 6 ページをご覧くださいと、自然動態の動向、あるいは 4. 社会動態の動向、これは、後ほどご説明する総合戦略のものと一致しています。それから 15 ページ、浜田港国際定期コンテナ航路貨物取扱量これについてもこちらから抽出しています。</p> <p>それから 18 ページ、②浜田市の宿泊者数推移表において、平成 28 年度宿泊者数について抽出をしています。その他、人口や高等教育機関、教育、児童福祉、</p>

産業経済、市の財政状況などの指標を掲載する、総合振興計画上の項目では挙がっていない部分も多数ございますが、関連するデータということでご参照いただければと思います。

続きまして、資料3をご覧ください。第2次浜田市総合振興計画前期基本計画の進捗状況についてご説明します。このことにつきましては、皆様方にも大変お世話になり、色々ご審議を重ねていただきました。

まず、1. 調査方法ですが、こちらについては市の担当部課で、28年度の進捗状況を内部評価しております。2. 調査結果、内容のところで進捗評価の基準を示しています。AからEランクの5段階になります。Aについては計画どおり、またはそれ以上の成果・実施があった。B、計画を少し下回る成果・実施があった、C、計画の半分程度の成果・実施となった。D、計画を大きく下回る成果・実施となった。E、殆ど成果・実施がなかった。以上、進捗評価の基準をお示しました。このように1次総合振興計画後期基本計画では、達成率を基準に、A、B、C、D、E評価を設定していましたが、今回はそういう形にはなっていませんのでご承知置きください。一覧表として、総合振興計画に基づきました部門別の計画と、自治区別の計画、開かれた行財政運営の推進と、この3つの分野を一覧表にしておりまして、分野ごとに合計141項目の評価の集計をしています。それぞれのA～Eの合計欄をご覧くださいますと、A評価が65項目の46.1%、B評価が33項目の23.4%、C評価が27項目、19.1%、D評価が16項目11.3%、E評価は0でした。AとBとを合わせると約7割になります。6年間の評価期間の初年度としては、概ね順調に進んでいるのではないかと考えます。一方、C、D評価については、約3割です。一番下の教育文化部門について、2つほど項目数がありますが、これについては後ほど説明しますが、指標値の進捗状況を把握することができなくなったということで、進捗評価の対象外としています。

続きまして2ページをご覧ください。これから具体的に各項目の進捗状況を見ていきます。進捗の評価の仕方については昨年の審議会でも、皆様からいろいろご意見・ご提案いただきましたが、今回におきましては、目標の達成率、先ほど説明しました進捗評価の2つの指標を用いることにしています。まず、目標達成率については、こちらをご覧くださいますと、策定時の現状値という欄があります。これは平成26年度を基準にしています。それから平成33年度の目標値、隣の欄です。この目標値まで、増加をさせる値に対して、平成28年度の現状値まで、どれだけ増加したか、という割合、つまり100%をゴールにしたときにどのくらいの位置にいるかということを目安として表す指標として、用いています。例を用いますと、2ページの下から3番目の5、「どんちっち」ブランド加盟業者数の増加というものがあります。策定時現状値の130店ですが、これを目標値140店まで10店増やす目標になっています。平成28年度の現状値は136店で6店増えています。このことから6店割る10店で目標達成率は60%、このような計算の仕方を基準としています。進捗評価につきましては、平成28年度の現状値に対して、担当課において、60%ということで、計画どおり、または、それ以上の成果があったと判定して、A評価としています。これが基本的なパターンになりますが、色々な項目、色々なパターンがあります。項目によっては、毎年均等に増えていかないものも、たくさんあります。例えば同じ2ページの下から4番目の4、「高度衛生管理型荷捌所整備率の増加」は国の補助事業の採択を受けて、基本設計には着手している、整備に向けた取組はほぼ工程どおり進んでいるということで、進捗状況の欄に記入しております。整備率としての目標達成率は5%しか

ありませんが、これがほぼ工程どおりということでB評価という評価をしています。このあたりの個別の要因などは、進捗状況欄でご説明をしています。下の欄の今後の取組欄については、昨年度いろいろご提案いただきました改善点、目標達成に向けた取組など記載しています。進捗評価は相対的な評価とさせていただいておりまして、目標達成率と進捗評価は直接、昨年度のように連動するというものではありませんので、ご承知置きいただければと思います。2 ページの 1 番上に凡例というというものがあります。これは平成 28 年度の現状値の数値が、策定時よりも、後退しているというものについては、下向きの矢印をつけていますので、ご確認ください。事前に進捗状況表の見方という資料も参考資料としてお送りしておりますので、詳細についてはそちらの方に記述しております。

続きまして、各項目の個別の評価についてご説明しますが、たくさんありますので、全部ではなく、目標達成率と進捗評価にギャップがある、あるいは順調にしているA評価、これを中心にかいつまんでご説明します。まず3 ページです。活力ある産業を育て雇用をつくるまち産業経済部門の上から3 番目、振興作物農業産出額の増加です。これについては、策定時よりも平成 28 年度の現状値の方が下回っているために下向きの矢印がついて達成率についても-54.8%になっています。が、これは、進捗状況の欄で長雨による天候不順の影響や梨は病気が発生したということでイレギュラーの要素が外的要因であったということで進捗評価としてはマイナスの達成率ですが、C評価としています。続いて4 ページ、上から3 番目の開業企業数の維持です。これは増やしていく目標ではなくて、毎年33 件という開業企業数を維持していくという目標になっています。これについては、策定時、あるいは目標値、現状値33 件となっておりますので達成率も100%で順調に進んでいるというということで進捗評価もAとなっています。同じ4 ページで下から2 番目の「コンテナ貨物取扱量の増加」です。これについても、現状値が策定時よりも下回っていますが、進捗状況の欄では、国内の取扱量が、相手側国内の価格不安定化により大きく減少したということで、外部要因がありますので、目標達成率としては、-45.7%ですが、進捗評価はC評価ということです。5 ページの一番上、浜田の五地想ものがたり協賛店舗数の増加です。策定時よりも1 店舗下回っています。これは単純に1 店舗減ったというのではなく、平成 27 年度には8 店舗が退会、7 店舗が加盟し、平成 28 年度には5 店舗の退会、5 店舗の加盟がありました。取組は行っているが、結果的には1 店舗減ったのでマイナスの達成率ですがC評価にしています。それから2 つ下の宿泊数の増加、これについては順調に現状値が確保されているという事で、達成率も49.3%、進捗評価もA評価です。続きまして、7 ページをご覧ください。下から3 番目の「要介護認定率の増加の抑制(要介護のみ)」です。これは少し違うパターンです。増えるのを抑えるという目標になっています。始めたときに18.8%で19.6%以内に抑えるという目標になっていて、28 年度では、始めたときよりも下回っているので、達成率は112.5%でA評価です。次に9 ページをご覧ください。上から3 番目の7 番8 番「人の気持ちが分かる人間になりたいと思っている子どもの割合の増加」です。冒頭にご説明いたしました、進捗状況を把握することが不可能になったため対象外となり、平成 28 年度全国学力調査からこの質問項目そのものが削除されてしまったことにより、進捗状況がわからなくなったとの事で、外させていただきました。続いて13 ページをお願いします。13 ページ、下から3 番目、「市道小国峠線道路改良」、これについても少し、ギャップがある項目になっています。これは道路の改良ですが、0%から50%に引き上げるという目標に対して、28 年度

	<p>は0%だった、よって達成率も0%ということですが、D評価としています。0%だからE評価ではということですが、E評価については、何の取組もない、実施していないものをE評価としていますので、この項目については、県の河川、県道改良に伴う事業ですので、県と協議を進めていけば、整備率としては0%でも、D評価としています。15ページの上から2番目ですが4.「携帯電話不感地域の解消」、これは増やすのではなく、減らしていった最終的には0にするというパターンの目標です。8集落の不感地域がありますが、解消するというので、減らずに8集落のままであったということです。これも何もしなかったということではなく、国の補助事業がありますので、そういったものを利用して携帯事業者の方にアプローチをしています。採算性の問題から、参画が進まなかったということで引き続き、参画を要請するという事で、D評価としています。それから17ページをご覧ください。下から4番目、「UIターン者数の増加」これについては143.8%の達成率で順調ということで進捗評価をAとしています。あるいは一番下の「空き家バンク登録件数の増加」も同じように、これはかなり目標を上回った実績が出ているということで757.1%ということで同じようにA評価としています。最後になりますが、23ページの一番上をご覧ください。「従事者用宿舍の運営に取り組む地域や団体の増加」、これは三隅の火力発電所の判定ですが、取り組む地域、団体を0から3地域に引き上げるということで、28年度はひとつもなかったのですが、火力発電で中国電力さんの宿舍の予定地が具体的にないということですので、引き続き商工会や自治会や連絡協議会からの情報収集、提供をお願いするというので、D評価です。</p> <p>このように達成率と評価にギャップがあるのはなぜかという項目を中心に説明をしました。続きまして「浜田市定住自立圏共生ビジョン 成果指標の進捗状況」についてご説明しますので資料5をご覧ください。このビジョンにつきましては成果指標については先ほど申し上げましたように、すべての項目を総合振興計画から、抽出している関係で、進捗状況などすべて同じ内容になっています。2. 調査結果の「成果指標」の進捗状況の一覧につきましても、A評価が43.7%、B評価が28%、C評価が6項目の18.8%、D評価が9.4%ということで、総合振興計画と概ね同じような結果となっています。個別の項目の説明につきましては、総合振興計画と重複しますので、割愛させていただきます。以上ご説明を申し上げます。よろしくお願いいたします。</p>
<p>地域プロジェクト推進室長</p>	<p>続きまして、資料4 浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略掲載目標の進捗状況について、説明させていただきます。資料4をご覧ください。先ほど総合振興計画の説明でございましたが、総合戦略も総合振興計画を作成するとき、その中から抽出する形で策定をしております。概ね同じような項目が挙がっています。この総合戦略につきましては1ページ目にありますように、4つの大きな基本目標がありまして、それぞれに代表的な数値目標を掲げています。それがこの1ページ目の2. 調査結果の(1)「基本目標」の「数値目標」の進捗状況です。最初に1の産業振興と起業立地による雇用の創出は4つの数値目標があり、A、B、C、Dがひとつずつという状況です。2の子どもを安心して生み育てる環境づくり、こちらはD評価、それから3番目のU・Iターンや定住の促進とふるさと郷育の推進はA、それから4番目の地域の特性を活かした安心して暮らせるはまづくりもA評価となっております。また4つの基本目標の中で取り組みますそれぞれの項目につきましては、「重要業績評価指標」KPIと申しますが、それを設定し</p>



ておりまして、(2)の表のとおり、合計 53 項目ございます。こちらはA評価とB評価が合計で 38 項目、全体の 7 割強という状況です。また一番下の(3)の表につきましては、地方創生の国の交付金を活用した事業の評価を挙げています。内容、概要につきましては、後ほど説明いたします。それでは説明をいたしますが、ほとんどは先ほど説明のありました、総合振興計画と同じ項目であり、当然同じ評価となっています。ここでは、総合振興計画に無い、独自の項目について説明をいたします。最初は 2 ページの中ほどにあります、「企業立地優遇制度による雇用創出数」です。その項目名の後に括弧でアスタリスクという米印のようなマークがついていますが、独自の項目についてはこのマークをつけています。この項目ですが、D評価となっています。平成 31 年度の目標とする雇用創出数は 100 人ですが、始まった 27 年度、28 年度の 2 年間で 8 人という状況であり、引き続き、誘致活動を行う中で、雇用創出に努めてまいります。ここで表をご覧くださいますと、お分かりかと思いますが、先ほどの総合振興計画と異なりまして、表の中ほどに 27 年度から 31 年度までのそれぞれの年度の数値が掲載されるようになっていきます。総合振興計画はまだ 1 年目ですが、この総合戦略につきましては、2 年目ということで、このような表記をしております。今後、5 年間こうした形で、各年度の数値がわかるように掲載してまいります。それから次の独自項目ですが、少し飛びますが、7 ページ、1 番上に「交流機会の創出」(\*)の項目です。これは主催イベント等の開催回数の累計を挙げたものですが、こちらはA評価、それから同じページの下から 2 番目には出生数(\*)こちらにも数値目標として挙げておりまして、これはD評価となっています。出生数につきましては、近年減少が続いておりまして、包括的な切れ目のない支援の継続と、保育所受入枠の拡大や、保育料等の負担軽減拡充等に取り組んでいくこととしています。出生数はD評価ですが、その裏の 8 ページ、下から 2 番目、先ほどの自然増減に当たる出生数に対して社会増減数、転入、転出の差につきまして、こちらは逆に社会減の状態が大きく改善し、A評価となっています。具体的には、策定時、平成 26 年度の転入、転出の差が-319 人、という状態から、平成 28 年度の 1 年間では、-118 人、ということで、減少が大きく減ったということで進捗評価がAということになっています。こちらにも引き続き、関係部署と連携をしながら定住に結びつく取り組みを進めてまいります。引き続き、独自項目ですが、10 ページをご覧ください。10 ページの上から 2 番目、「公民館におけるふるさと郷育(地域住民対象)の実施数(\*)」、こちらはA評価となっています。以上の 5 点が、総合戦略の独自の項目ということで、その他は総合振興計画と同じ項目となっています。最後に 13 ページをご覧ください。冒頭少し触れましたが、総合戦略の掲載以外の地方創生の交付金を活用した事業の結果を挙げております。地方創生の交付金につきましても、こうした、指標、KPI を掲げることとなっております、その状況を挙げておりますが、この中では、中ほどにあります、「ユネスコ和紙ブランド推進連携事業」こちらが、石州半紙の売上げがD、ユネスコ和紙ブランド商品数がC評価、となっています。これは平成 28 年度の取組ですが、その前年平成 27 年度にユネスコ再登録ということで、売上げが大変大きくなってまいりまして、28 年度は、それを上回ることが出来ませんでした。こちらは現在、再登録のときに連携することとなった、3 つの産地、他の和紙がございまして、そうした産地と連携をして、事業がされたという事もあり、引き続き、取組を進めていくということになります。

主に独自項目など、総合振興計画に計上されていないものを中心に説明させていただきました。計画等の進捗状況の説明につきましては以上です。

質疑応答 (2)について	
会長	<p>ありがとうございました。只今、ご説明いただきました。</p> <p>はじめに、議題(2)の「第2次浜田市総合振興計画前期基本計画」及び「浜田市定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について」、委員の皆さんから、ご質問やご意見をいただこうと思っておりますが、玉置委員さんより事前に質問が出ておりますので、そちらについて事務局より回答をお願いします。</p>
政策企画課長	<p>事前に玉置委員よりご質問をいただいております、ペーパーを皆様方にお配りしております。5点ほどご質問いただいておりますので、各担当部長が回答させていただきます。その後、委員の皆様からご意見をいただこうと思っております。</p> <p>まず1.進捗評価のランク付けについて2項目ほどいただいております。D評価とE評価の内容が逆ではないかということです。ほとんど成果が、あるいは実施がなかったというのが、達成率が0ではないか、逆に計画を大きく下回る成果・実施となったというのが、計画より下がるのだからマイナスではということ。これについては先ほどもご説明させていただきましたが、達成率と進捗評価は直接連動していませんので、それぞれの目安として、示しているものです。したがって、具体的な項目についても、マイナスでもC評価、D評価があるということで、そのギャップについてご説明をさせていただきました。D評価が、ほとんど成果・実績がなかった、E評価が計画を下回る成果・実績・実施ということですが、ほとんど成果・実施がなかったというのは何もしていなかったという意味合いをこめてのE評価としています。反対に、D評価は大きく下回るのですが、実施についてはやったと、その結果残念ながら、大きく下回ることになったというような意味合いですので、ご理解いただければと思います。それから2点目につきましても、同じ質問ですが、AからEの評価付けというのが、分かりにくいということです。おっしゃるとおり、絶対評価ではなく、相対的なあるいは各担当課で評価をしている部分がありますので、そういった相違点もいくつかあるかと思えます。4ページの事例を用いて国際貿易港浜田港など港湾を活用した産業振興について、例えばということやっていたいただいておりますが、3つほど項目がありまして、2の評価がマイナスの度合いが高いにも関わらず、3の評価よりも良いというのがどうなのかということと思っておりますが、中身については基本的に進捗状況の欄がありますので、そのギャップについて説明をしています。この部分についても2のコンテナ貨物取扱量の増加については相手側国内の価格不安定化という外的要因があるということで、C評価となっております。以上です。続いて2番の質問です。</p>
健康福祉部長	<p>はい、健康福祉部からお答えさせていただきます。ご指摘のとおり、国の方の考え方は、健康寿命については、日常生活を制限されることなく、生活出来る期間という定義をされています。浜田市の総合振興計画の中での健康寿命というのは、下の注釈にも載せておりますが、65歳に達した方が、健康で自立した生活を送ることが出来る期間という定義をしまして、これは65歳プラス、平均自立期間としたものが、健康寿命と総合振興計画の中では、定義しています。これは、国は、玉置委員さんのご指摘のとおりですが、実際に健康寿命の算定方式については色々な方法があるようでして、島根県においては、人口や死亡数、介護保険の要介護の認定者数ですね、そういった色々なデータを用いて、平均の自立期間、自立が可能な期間、そういうものを算出しています。そういった島根県のデータを使って、65歳と島根県が出した平均自立期間を足して、健康寿命ということで、</p>



	総合振興計画は策定していますので、同じ健康寿命という言葉でも考え方は違うということでご理解ください。よろしくお願いいたします。
玉置委員	進め方ですが、私の質問がいろいろなところに飛んでいて、皆さんの思考があちこちとして分かりにくいかと思ひまして、1番の方で他にご質問がある方がおられたら、というふうに分けて進めた方が良いのではと思うのですがいかがでしょうか。
会長	そうですね、ではそのようにしたいと思います。玉置委員の質問の1番ですが、進捗評価のランク付けにかかる事務局からの回答がありました。まずここからいきましようか。何かご意見があれば。まずは玉置委員からお願いいたします。
玉置委員	1番の進捗評価のランク付けについては、先ほど岡橋さんのご説明で、要するに目標達成率と進捗評価は連動していないという説明があり、分かりましたが、目標達成率を計算で出しているのは非常に明快です。ところが進捗評価に行くときにどんな状況、今の流行の言葉でいうと付度して、という内容が入っていて、そこがやっぱり分かりにくいという印象を私は得ました。他の委員の方にもお尋ねしたいのですが、このA、B、C、Dの評価にどれくらい価値があるのかなという問題に尽きてしまうので、私はこれを全部否定するつもりは全くありません。A、Bあたりの評価は非常にすっと入ってきました。非常に成果があったということですね。Cのところでも0%なのにCだとか、マイナスでCだったでしょうか、そのあたりから頭が混乱してきまして、分かりにくかったというのが率直な印象だったので、非常に科学的に出された数字から、評価につなげる間に評価する方の主観というか、状況、背景、難易度でしょうか、目標を達成する難易度の評価が入っていると思います。ご説明は分かりました。Eの説明は、ほとんど成果・実施がなかったというよりは、要するに取組がなかったという風に定義されたほうが分かりやすいのではないのでしょうか。とお聞きして思いました。Dまでは良いとしても、どれも取り組んだことは取り組んだけれども、どんな状況で達成できた、ないしは成果ゼロ、マイナスになってしまったということのほうが、もう少し分かりやすいでしょうか。ほとんど、成果・実施はなかった、この実施がなかったと成果がなかったは違いますよね。取組はなかった、実施がなかったにしたらいかがでしょうか。2番目の-61%がEで、-45%がCで、-33%がDで、わかりませんがこのあたりは固執しないようにします。
政策企画課長	はい、ありがとうございます。おっしゃることはそのとおりだと思います。評価するにあたって非常に難しかったところです。目標達成率という計算で一律に出るものと、進捗評価という、主観的な部分が入るものが分かりにくいということだと思います。達成率だけの評価にしますと、先ほど申し上げましたように、マイナスの部分、ゼロの部分、プラスの部分等出てきますが、マイナスの部分が本当に何も取り組んでいなかったのかということ、そうではなく、取り組んだが、難しい部分があった、ましてや、6年間の初年度ということもありますので、それにつきましては、進捗評価、A、B、C、D、Eの中で、拾いあげる部分もあったかもしれませんが、より実態に近いということを示すという意味で、2つの項目を使用したことについてご理解いただきたい。Eの部分については、取組がなかったとした方が分かりやすいのではないかと思います。今回については、取組が全くなかったということではなく、1年目ということもあるので、ほとんど成果がなかったということにさせていただきたいと思ひます。
地域政策部長	回答させていただきます。A～E評価ですが、Aというのが、計画どおりかそ

	<p>れ以上の成果があったということで、B、Cと行くにしたがって、計画よりギャップが大きいですが、成果が上がっている。Eについて言うと、全然成果がないということですので、DとEの差は、Dは計画には全然達していないけれど、多少なりとも成果があったということですので、順序から言うとやはりDはこの順番でご理解いただきたいと思います。ただ、一般論として、A、B、C、D、E評価をするとCが真ん中くらいで、Bは優れていると、Aは特に優れているという評価になりますが、この見方は、Aが当たり前で、B以下はそこまで行っていないということなので、誤解があってははいけませんけれど、まだまだ努力しなくてはいけないと思っております。それから今回の評価が、目標達成率という事をパーセントで表したものです。主観の入りようがないもので、進捗評価になると、客観性が少し失われる形で、担当の主観が入ってまいります。ただ、5年の計画が毎年同じくらいに比例して上がっていくものであれば、達成率を基にA、B、C、D、Eと出ますが、予定どおりに進んでいくもの、例えば、設定を1、2年目で行い、結果は出ないが、3、4年目に結果が出るというものもありますので、それは達成率が低いから進んでいないかということ、予定どおりのもの、これがひとつの成果です。したがってご意見頂戴していただいて思いましたのが、A～Eまでの評価をこうやって分類分けしていますが、もしかしたらパーセンテージの分類がどうなっているのか、マイナスがどのくらい多いのか、というのは指標が違うので、これとは別に1枚作ってお示しするとよりわかりやすいと思います。そのあたりを少し検討させていただきたいと思います。</p>
会長	はい、佐々木委員お願いします。
佐々木委員	<p>評価の考え方について、評価とか進捗率ですが、このひとつひとつの事業が市民に評価されているか、予算が事業にあつてうまく行っているかどうか、というところを評価するというか、見るところのポイントなのかなと思うのですが、例えばこの教育のところなんかでも、8ページの「総合的な学習の評価」で学習したことが普段の生活や社会に出たときに役立つと思う子どもの評価がすごく下がっているけれど、片方で取組は良いということで、Dになって、子どもの思っているところはCであったり。行政の担当部署が予算をつけて人員を配置して、開催回数を増やすと、達成率も回数が上がってきて、評価も高くなるが、実際に何人が参加して、市民がそれに対して評価をしたかということは差があるのではと。ボランティアのこともありますが、ボランティアの参加数は、少なくても、会の回数、呼びかけはすごく出来ているというのがありましたが、そのところ、実際にこれで、Aランクになっているところは予算もあって市も人員も配置してしっかりやったものはAランク、市民が自主的に参加するもの、スポーツ大会の参加者数なども少なかったり、ボランティアの参加者数もCであったり、そういうところを見て、Aランクで進めていく事業だが、実際には参加者の評価がCだったりというものについては見直していったら良いのではないかと思います。そういう見方にこれを使うのではないかと思います。</p>
地域政策部長	<p>今、ボランティアの例ですが、10ページの社会教育の推進の2番目の項目、「学校支援活動に参加したボランティアの人数の増加」、例えばこれで言うと、具体的にもう一度、お伺いしたいのですが。</p>
佐々木委員	<p>このページで言うと、団体数を評価させるには、予算を付けたり、人員配置したりして、そういうことは出来るかもしれないけれど、実際市民が意識して、足を運ぶとか、参加するとか。参加者が少ないものは、どうしたら参加してもらえ</p>

	<p>るかというの必要ですが、必要なものというのが、このC評価に、参加者の気持ち、そういうものがこの評価で、私たち一般市民が見るための評価なのかなと。市民が参加しないものに対して、A評価だから、予算を使って進めていくものです。しかし実際の参加者数を見るとC評価であったり、このギャップをここで読み解かないといけないのではと考えますがいかがでしょうか。</p>
副市長	<p>おっしゃることは市民目線での評価が繋がっていけば、その部分が出てくるのではとされていると思うのですが、評価するのは、やっている担当課が、こういった取組をしっかりとしているか、市民参加が出来るようなどんな努力をしたのかという評価が出てくるわけです。ですから市民がたくさん参加しないのは、市民も関心がないからということもあるかもしれませんが、関心を持たせるようにしっかりと、担当課は努力してください。その評価が足りないのではないかというのが進捗評価ということになるので、言われることは、実施しても市民の関心が無いものについてはやらなくても良いのではないかというのがあるのではと思う。その評価というのは中々大変な部分もあると思うので、全体の成果がどうだったかという部分は、担当課が努力をしなければいけません、もう少しやり方にも工夫が必要なのではないかと考えます。市民の方にも、そういった部分について、しっかりと啓発していく必要があると考えます。その評価をするというのは、中々難しいのではないかと思います。ただ、しいて言うとも担当課の努力もありますが、市民の理解があったかどうかについては、当然意識が薄かったのだろうという事は、言われるように、あったのではないかと思います。</p>
会長	<p>私も正確に理解しきれないところもありますが、佐々木玲慈委員のご意見は、予算や資源を配分するときに、たくさんある事業の中で、評価に応じて、どのように配分したら良いかという問題意識もお持ちなのかという風に聞きました。おそらく、今後の研究課題なのかと思います。今の仕組みですと、それぞれの事業をどう評価するかという視点なのかと思います。</p>
副市長	<p>予算の付け方で、評価が高くなるということはありませんので、予算付けをどうするかという部分は違った視点から見なければなりません。評価については6年間の総合振興計画の長期スパンでの達成率を見ながら、年度ごとで、どうなるかを見なければいけないので、評価の仕方が非常に難しい。文章の中で少し補足説明をするしかないのかなと考えます。2年目までは取組をしっかりといても、進捗自体はそれほど進まないことも事業によってはありますので、3年目から何十パーセントと高まることもあるわけです。その辺の捉え方というのがなかなか同じように1年ごとに25%上がって4年で100%になるというものではありません。1年目ですと、こちらも評価の仕方を研究させていただきたいと思います。非常に難しい部分もありますので、ご理解いただければと思います。</p>
会長	<p>最初から、明確な基準でできればと思いますが、難しいということで、すでに詳細な資料ですが、少し説明書きを加えるということで、理解が進むような書き方を工夫していただければと思います。その他、評価の仕方について、ご意見があるとは思いますが、どうしてもということがありましたら、後ほど伺いたしますが、次の論点で、一旦説明はいただきましたが、健康寿命に関すること、改めて玉置委員からございますか。</p>
玉置委員	<p>先ほどのご説明では、島根県の算出方法は独特なものがあるという説明だったでしょうか。</p>
健康福祉部長	<p>独特かどうかは分かりませんが、人口や死亡数、介護保険の要介護の関係、そ</p>

	ういうところで算出に使っているということです。
玉置委員	そういうことは知りませんでした、厚生労働省から出ている全国一律の表がありますよね。それとの整合性がつかないと思うのですが。私たちは日本全国の平均余命を男女それぞれ知っていて、だいたい10年引いたら健康寿命ですが、島根県はどのあたりに位置しているのか、厚生労働省の資料には出ていますが、全国の中でどのあたりの位置にいるのかという認識が、この数字では掴めないですよ。80何歳を超えています。これは寿命を超えているなら分かりますが、みなさん健康で、寝たきりの方がいらっしやらないという非常に結構な状態だと誤解を生じる可能性もありますね。そのあたりの整合性をとるために、島根県の計算ではこうですが、全国との整合性をとるための二段構えの表記が必要なのではないかと考えますが、いかがですか。
健康福祉部長	ありがとうございます。この総合振興計画で言いますと、平均寿命と健康寿命を載せていますが、両方の数値は関連がないという状況になっていますので、今後、計画作成時には、委員さんの言われるように、出来るだけ比較が出来るようにしたいと思います。ありがとうございました。
会長	今の段階で対比が出来たりはしませんか。難しいですか。
健康福祉部長	すみません。難しいです。
会長	難しいということで、やむを得ないかと思えます。この件につきまして他の委員さんから何かありますか。よろしいですか。そうしますと3点目で図書館利用登録率に関する件です。事務局から回答をお願いします。
教育部長	はい、教育委員会から説明させていただきます。ご質問の内容につきましては、図書館の登録利用数の増加、ご質問につきましては10ページの4、その下に5として、市民1人当りの図書館利用数の増加ということで、これは取組が入れ替わったほうが良いのではというご指摘ですが、これはどちらも図書館の貸出冊数の増加を目指すもので、上段の4の登録率の増加ということでございますが、これは、新たに図書館の利用者を増やしたいという意味合いです。新規の登録者を増やすことから取組として挙げていますが、乳幼児期から子どもに関心を持ってもらい、そのまま図書館のユーザーとして定着してもらいたいという意味合いでの取組として位置付けています。次の貸出冊数の増加、すでに利用している方のさらなる利用を目指したいということです。取組内容としては図書館の魅力を上げることですが、一方では人口減少が進んでいるので、こういった中で人が減って行って、ただ貸出冊数だけが増えれば良いということではなく、図書館の認知度をアップさせるということをつけ加えているということです。それぞれの目的、あるいはそれに対する取組ということでご理解いただければと思います。以上です。
会長	ありがとうございました。
玉置委員	今日たまたま図書館で館長さんに出会って、今のご説明を直接いただきました。ご説明ありがとうございました。登録利用者数の増加、これは新規の方を増やすということですね、出来るだけ多くの方に図書館を利用いただくために図書館の確保数を増やすということです。市民1人当たり図書館貸出冊数の増加、1人当たりの冊数の増加ということですが、館長さんが強調されたのが人口減少の社会において利用者数が減っていくその中で現在利用している方の読書数が増える、つまり分母は減るわけですから、それは本意ではないとおっしゃっていました。非常に感銘を受けました。まったくそうであります。ですから、5番の図書館貸出冊数の増加というのは4番プラスの努力がいるということですね。そののと

	<p>ころを一言加えていただくともう少し分かるかと思うのですが、人口減少社会において1人当たりの貸出数、分母が減るわけですから、そのままだと貸出数は増えると、そういう増え方は本意ではないということを短い文章で一言入れていただければ、1人当たりの貸出数の増加を増やすことの意味が非常によく伝わります。それを一言どこかに入れていただければと思います。</p>
教育部長	<p>検討させていただきます。</p>
会長	<p>よろしく申し上げます。 市内美術館における創作活動等の受講者数の増加についてですが、どなたかございますか。</p>
教育部長	<p>総合振興計画の現状値と浜田市の概況の13ページに載っている人数と乖離があるのではというご指摘ですが、13ページの世界こども美術館と石正美術館の利用者の推移ですが、世界こども美術館の方は展示観覧と創作活動、その他という風に分けています。創作活動としか書いていませんが、創作活動のみではなく、講座や教室も含まれていまして、それ以外のものがその他としてホールでの展示とコンサートということになっています。石正美術館の方ですが、その他の欄はありません。展示観覧以外はすべてギャラリー・創作活動です。</p> <p>こども美術館の創作活動はおよそ1万人余、石正美術館は9,000人余、これを足して約2万人の中で、創作活動に相当する数値を除いたものが、総合振興計画に挙がっているとご理解いただければと思います。策定時現状値が9,763人、28年度現状値が2万人のうち、10,796人と見ていただければと思います。</p> <p>後段に美術館、図書館の施設利用者と来館者は区別して言葉を統一してはということですが、浜田市の概況の13ページを見ますと、同じ美術館でありながら、こども美術館が利用者、石正美術館は入館者、他の施設も利用者等いろいろな表現をしていますが、美術館においては入館者に改めた方が良いと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。ご理解いただけましたでしょうか。</p>
玉置委員	<p>創作活動等の受講者数とその他と分けていますが、何を指したいのかよく分からない。本来、美術館で目指すのは展示に対する入館者の数が大事なのではないか。創作活動だけを取り上げて、しかも石正美術館の場合はギャラリーと創作活動が一緒になっている中で、創作活動だけを取り上げたのかわかりにくい。どうやって区別しているのかわからなかった。用語については、私は図書館友の会に入っていて、館長より、毎月例会において前月の入館者、利用者数、利用冊数の報告を聞いている。きちんと分けています。入館者は。すべてゲートを通して入った方、利用者は本を借りた方、利用冊数は貸出の数と非常にはっきりしている。美術館の場合は入館者ないしは来館者と統一されまして、どちらがどうなのか、入館者、来館者は料金を払って展示を見た方なのか。そこをきちんと受け継ぐための活動とあわせて用語を統一していただければ、指導のときにはっきりするのではないかと。</p>
会長	<p>事務局からも、すでに整理するとの回答がありましたので、ご理解いただければと思います。5点目になりますが、浜田市の観光入込客数の推移に関することで回答ございますか。</p>
産業経済部長	<p>産業経済部からお答えします。浜田市概況18ページをご覧ください。ここでは観光入込客の推移と宿泊者数の推移を載せています。入込客数のほうが、宿泊者数より数字が大きくなるのでは、ないかというご指摘のとおり、入込客数のほうが平成28年度に171万人、宿泊者数が23万7千人ということで、ご指摘のとおり</p>



	<p>りの状況です。入込客の算出についてですが、島根県観光動態調査に基づいて、観光庁共通基準調書と独自調査により算出しています。観光庁共通基準調書は観光庁の観光入込客統計に関する共通基準に基づいて、観光地点、行祭事、イベントの入込客について調査を行っています。観光地点の要件としては、非日常利用が多いこと、いわゆる観光地であること、入込客数が、適切に把握できていること、前年の入込客数が、年間 1 万人以上もしくは、前年の特定月の入込客数が 5 千人以上であることとなっており、行祭事、イベントの要件は入込客数を適切に把握できること、前年の入込客数が年間 1 万人以上もしくは前年の特定月の入込客数が 5 千人以上であることとなっています。独自調査としては観光庁共通基準地点を補完する調査として公団社団法人日本観光振興協会が、刊行している全国観光統計基準による地点を対象として行っています。このように二つの調査による延べ人数の合計を、観光入込客数として算出しています。浜田市ではアクアス、石見海浜公園、しまねお魚センターなど 27 地点を対象に調査をしています。以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございます。ご理解いただけましたでしょうか。</p>
玉置委員	<p>はい、ありがとうございました。桁を勘違いしてしまして失礼しました。単位を万人と千人を勘違いしてしまいました。東部と比較してどれくらい違うのでしょうか。</p>
産業経済部長	<p>多いところでは松江市が 1,000 万、出雲市が 1,200 万です。入込客数は東部とは比較になりません。</p>
会長	<p>ありがとうございました。他の委員からのご質問・ご意見を承りたいと思いますがいかがでしょうか。</p>
柿元委員	<p>教えていただきたいのですが、進捗評価に関わった方たちは、これを見れば、すごくよく分かっておられると思いますし、皆さんの分かりやすさを考えながら作成されたと思いますが、もっと分かりやすく、分かりやすさを追求して作成していただければと思います。加えて進捗評価を見て、浜田市の「住みたい 住んでよかった 魅力いっぱい 元気な浜田」というのがあって、基本構想があるのですが、独自性、実行性、全体的な評価としては、これを見てどう評価されているのか。</p>
会長	<p>いかがでしょうか。</p>
地域政策部長	<p>振興計画策定時に、前回の振興計画と比較して、項目を増やして、進捗状況をしっかり管理しようとして出していただいた経緯がありました。したがってことこまかに百数十の項目をチェックしていきますので、全体像が見えにくくなっていることがあると思います。個々の A B C D E 評価は別にして、全体のトップのページを見ていただくと、予定どおり進んでいる A 評価というのが 46% ですので、B は除いて、計画どおりの割合はそのくらいです。1 年目として 46% が高いか低いかというところはあるかと思いますが、6 年のうちの 1 年目でここまで評価が出ているのは順調ではないかと思います。ただ、A に満たない項目も半分以上ありますので、これはきちんと受け止めて、しっかりやっていかななくてはならないと思います。というのが、相対的な、進めていく浜田市として、そのように考えています。</p>
柿元委員	<p>特に、1、2、3 で言えば、どれが優れているのか、どれが足りないとお考えですか。例えば、独自性がまだなのか、発展性がまだなのか、評価を見て、どう感じておられるのか。</p>

地域政策部長	<p>発展性という、近隣自治体を巻き込んで、県西部をリードしていくというような意味合いですので、ひとつひとつの項目から導き出すのは難しいと考えます。ご指摘のとおり、独自性や実行性や共感性や持続性がありますけれども、少なくとも浜田らしいまちづくりについて言うと、その為に掲げている項目について言うと、客観的が入りますが、順調に進んでいると思います。共感性や持続性となりますと、地域の方と協働でまちづくりを進めていけないといけないという部分についてですが評価も難しく、なかなか一足飛びにいけないというのが実感です。</p>
会長	<p>全体としては難しい作業だと思いますが、分かりやすさを目指していくことだと思いますし、細かい部分をつきつめると全体像の把握が難しくなるということで、工夫が必要ということでご理解いただければと思います。その他、いかがでしょうか。</p>
玉置委員	<p>A評価に達した項目についてですが、内容はいろいろあったと思います。油断をすれば、後退してしまう可能性のあるもの、ないしは到達してしまってもう十分というものもある。これに対して、もっとハードルをあげて次に進むのか、やめてしまうのか、市はどのように考えていますか。</p>
地域政策部長	<p>目標設定時に、ある程度、統一した目標、進捗管理しやすい目標をたてておけば良かったというのが、反省点です。実際たてた評価項目に対して追っていくというのは、ばらばらだったかなというのが反省するところです。A評価をしたもののうち、累積が目標に達したものに関しては、さらに目標を高く掲げなおして、進める必要があると思います。毎年の状況を評価しているものは、簡単に指標を変えても、例えば今年A評価でも、来年B評価になるということもあるので、それについては、同じ項目、同じレベルで保てるように努力していくということが必要かと考えます。今の玉置委員さんのご質問に答えると、累積で目標を達成したものについては、さらに目標を上方修正するというように考えています。</p>
会長	<p>はい、よろしいでしょうか。その他ありましたらお願いします。</p>
馬場委員	<p>お時間大丈夫でしょうか。資料3の9ページ、特に浜田市の将来を担う子どもたちのことについてですので、要望として、お聞きいただければと思います。7の「人の気持ちがわかる人間になりたいと思っている子どもの割合の増加」というところで、空欄になっていますが、先生方お忙しいのは分かっていますが、小学校、中学校の児童、生徒の状況を知るひとつの指標として、この項目はなんとか学校で考えていただいて、アバウトでもなんらかの数字が分かるような指標をお願いしたい。同じページの5の「自分には良いところがあると思っている子どもの割合の増加」についてもC評価になっているので、これも併せて、子どもたちの状況を把握するプロセスについても教師が意識的に関わることはとても大事だと思いますので、ぜひ、空欄のままではなく、なんらかの対策をお願いしたいと思います。</p>
会長	<p>ただいまのご意見に対して、お願いいたします。</p>
教育部長	<p>ご意見ありがとうございます。空欄になっている項目については、毎年、全国家族調査というものをやっています、その質問項目から抜けたので空欄になっています、という説明をいたしました。これを生かそうと思えば、別の調査をしなければいけませんが、それだけでやって良いかということもありますので、検討させていただきたい。</p>
会長	<p>同じように同じ指標を使えない。進捗の評価に使えるかどうかはわかりませんが、把握いただければと思いますのでよろしくご検討いただければと思います。</p>

	他に何かありますでしょうか。
村井委員	16 ページの総合防災訓練の参加者の増加というところで、C評価ですが、地域で防災訓練参加者が含まれているのですか。それとも含まれず、現場に行った人だけですか。
総務部長	総務部長です。ここに出している数字は、周布地区であるとか、三隅は三隅自治区で挙げています。それぞれ実施いただいた数を含めて出しています。瀬戸ヶ島中心にしましたが、それだけではなく、今後はどこで実施するかはわかりませんが、浜田自治区内で実施するものだけではなく、各自治区や自主防災組織で実施いただいた数も含めてカウントしたいと考えています。
村井委員	ありがとうございました。それにしても数が少ないように思います。
総務部長	28 年度の数字ですので、今年度はもっと多くなっていますのでよろしくお願いいたします。
会長	ありがとうございます。よろしいでしょうか。
<b>質疑応答 (3) について</b>	
会長	<p>続きまして、(3) 浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について、多くは重複していますが委員の皆さんから、ご質問やご意見があればお願いします。最後に、全体的なところで何かご質問やご意見があればお願いします。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>以上、全体的に皆さんからいただきましたご意見について、事務局で対応をお願いします。</p>
藤本委員	<p>基本的なことですが、お聞きしても良いでしょうか。平成 28 年度から平成 33 年度まで 6 年間の計画の、今ご報告いただいているのは 1 年目の数値ですね。これに対して、目標値があって、28 年度の取組状況、実績に対して、達成率はこうです。したがって、進捗評価が A とか B とかですが、今もうすでに 29 年度に入っていますが、次回の評価時には 28 年度の数値に加えて、29 年度に取り組んだものを足したものが出てくるのですね。そうじゃないのでしょうか。年度、年度で見るとでしょうか。そうしないと非常に見にくい数値になっていまして、目標達成値というのが非常に見にくい数値となると思います。例えば、目標が 6 であって、現在が 3 だったら単純に言えば、達成率は 50% ですが、こちらのほうの資料で言えば、25% です、というような数字が出ています。非常に見にくい数字となっていますので次回の進捗評価時には 28 年度までの数値プラス 29 年度に取り組んだ数値を加えたものが、達成率として出てくると思うがどうか。違いますか。少し分かりにくくてすみません。</p>
地域政策部長	<p>総合振興計画は 1 年目ですが、総合戦略（資料 4）のほうは 2 年目の分析をしています。したがって来年の総合振興計画を分析する際には、ここにありますように、28 年度の分析結果と 29 年度の分析結果と分かるように両方とも示しているというようなやり方を考えています。</p>
会長	<p>ありがとうございました。なかなか難しい問題ですが。</p> <p>その他、よろしいでしょうか。</p> <p>細かく見ればいろいろあるかと思いますが根本のところの修正というご意見はなかったかと思えます。</p>
<b>3 その他</b>	
<b>(1) 第 2 回審議会の開催日程について</b>	

会長	<p>最後に「3 その他」に移ります。</p> <p>(1) 第2回審議会の開催日程についてですが、お忙しい中、再度皆さんに集まってお話だけでも無いように思いますので、第2回の開催はしないで、事務局で修正等していただいたものを書面でいただいて確認するという事に提案したいと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>ご理解いただけたものとしてよろしいでしょうか。</p>
地域政策部長	<p>ありがとうございます。今日いろいろご意見をいただきまして、評価項目の細かなところをやりとりしてありますと、どうしても全体が見えなくなってしまったのが反省点として考えています。従いまして今日いただいた、特に柿元さんからいただいたご意見を元に、こういう分析をして全体としてどうだったかということが分かるようなものを添付させていただいて、A～E評価以外で、パーセントだけで、主観的な分析だったらどうだったかというものを作成しまして、それを改めて、委員の皆様へ送付させていただこうと思います。それをご覧いただいて、ご質問があれば改めて受けたいと思います。そういう方向でご理解いただければ、会長からご提案がありましたように、1回で締めということでさせていただければと思います。</p>
会長	<p>そのように進めていきたいと思います。ただいま言われたような工夫を凝らした、修正、意見を反映させた資料が送付された際には、ご確認等をお願いします。ご意見があればお知らせください。</p>
<b>(2) 事務連絡について</b>	
会長	<p>続きまして、(2) 事務連絡を事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>(委員報酬等の支払いについてお知らせ)</p>
<b>◆ 閉会</b>	
会長	<p>本日の予定は以上ですが、委員の皆さん又は事務局から何かあれば、お願いします。司会の不手際がありまして、少し予定が延びましたがこれで終了させていただきます。</p>
副市長	<p>長時間にわたりまして、いろいろご意見いただきました。評価の仕方については、いろいろ工夫しなくてはならないと、問題点もありますので、出来るだけ文章で付加できるものには、そのようにしたいと思います。先ほどありましたように全体がよく分かるような、評価の仕方についても工夫をしていきたいと思えます。1年目ということでもいろいろご意見をいただいたと思えますので、それを含めて研究していきたいと思えますのでよろしくお願いいたします。本日は大変ありがとうございました。</p>
会長	<p>それでは、以上をもちまして、審議会を終了いたします。</p> <p>お疲れ様でした。</p>

(午後8時15分閉会、所要時間 1時間45分)